



GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

276◎通信

ガバナー月信
JULY 1994

NO. 2

1994～1995年度、国際ロータリー会長のテーマ

BE A FRIEND

友達に なろう。

R.I.会長/ビル H. ハントレー



1994～1995年国際ロータリー第2760地区

ガバナー 蜂谷 弘道

事務所/〒451 名古屋市西区樋の口町3-19

ホテルナゴヤキャッスル 427号室

TEL. (052)521-2121 FAX.(052)523-1998

第85回R.I.国際大会(1994年6月10日～15日)

共感、感動、また感動。—感激の5日間。

国際大会に出席して



GAN-BEI IN TAIPEI
The Chinese Hospitality Way



1994-'95年度

国際ロータリー第2760地区

ガバナー **蜂谷 弘道**

第85回R. I. 国際大会は、台湾の台北市において行われました。

6月11日(土)午前9時30分、日本アジア航空にて名古屋を出発しました。機内を見回すと第2760地区のロータリアンばかりでした。私は、ガバナーノミニーとして地区ロータリアンの皆様のご情熱に対し、心よりありがたく感じました。

この大会後の公式発表によりますと、登録者は31,092名でした。これは、東京(1978年)、ソウル(1989年)に次ぐ、史上3番目の大きな大会でした。日本から12,099名、台湾からは9,818名の多数のロータリアンが登録されました。台湾は、台湾全体のロータリアンの約85%の会員の方が登録されました。また、アメリカは2,929名の登録でした。大会委員会委員長ピーチャイ・ラタクル氏は非常に感謝しておられました。

大会の開会式は、台北郊外の林口体育館で午後2時30分と午後8時からとの2回に分けて行われました。私共は、午後8時からの第2回目の開会式に出席致しました。

ロバート・バースR. I. 会長の基調講演に始まり、台湾の連戦行政院院長からは、歓迎の辞と国連復帰の熱い思いを訴えられました。

バースR. I. 会長は、



「ロータリーは、政治、宗教、人種には関係することができないが、そのお心に深く同情申し上げる」とのご感想を述べられました。

その後、台湾出身の国際的歌手、ジュディ・オングさんの司会で、中国のオペラ団の特別公演があり開会式を盛り上げました。

大会第2日の本会議は、11日(土)午前9時30分より開かれ、ハーバード・ピグマン事務総長から1993—'94年度の年次報告、次いでR. I. の松本卓臣財務長から1993—'94年度の財政について報告演説がありました。「R. I. の財務状態も努力の結果、赤字より黒字に改善

され、会員の分担金もこれ以上、上積み頂く事はない。」とのご報告がありました。これは、喜ばしい限りです。

その後、インドのラジェンドラ・サブ元R. I. 会長から、アジアにおけるロータリーの奉仕の実態に関するお話があり、私どもは非常に感激致しました。

また、記念講演として垂水公正アジア開発銀行前総裁のお話がありました。

また、13日(月)にはアジア・ワールドプラザホテルにおいて、会長エレクト主催の昼食会があり、親しくビル・ハントレー会長エレクト



トと会食を楽しみました。

本大会で私の目を引き付けたのは、最高のロータリー奉仕展示会において第2610地区小松東RCが出展された『秘境アマゾンの青少年たちのキャンプ場設立の計画』でした。それは、コロンビアのマカレナ国立公園内に455ヘクタールの熱帯雨林を確保し、動植物の多様性と森林の保護を訴える内容で、有意義なキャンペーンでした。私は、深く感動し、小松東RCのロータリアンにエールを送ったのです。地球上の全生命の共生と地球環境問題は、ロータリアンが奉仕の価値観を考える際、最も重要な問題であると私は感じています。私は、ここで今一度、小松東RCの皆様に敬意を表します。

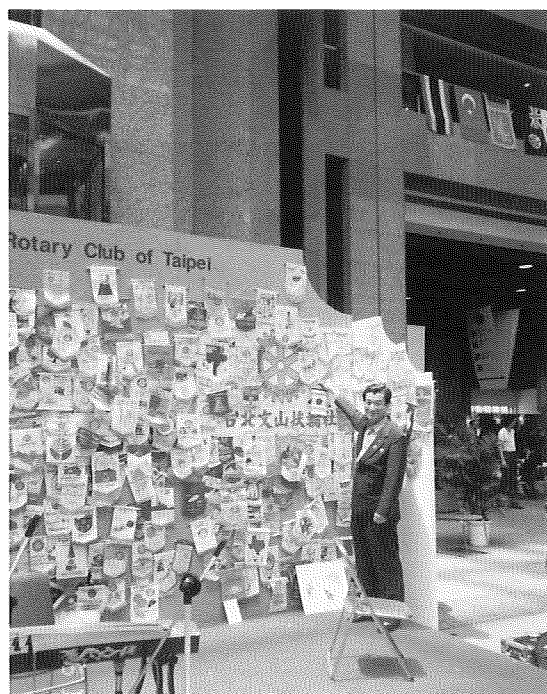
最終日の第4回本会議は、いよいよガバナーノミニーがガバナーエレクトになる信任状を査証して頂き、R. I. の役員が選出される会議です。

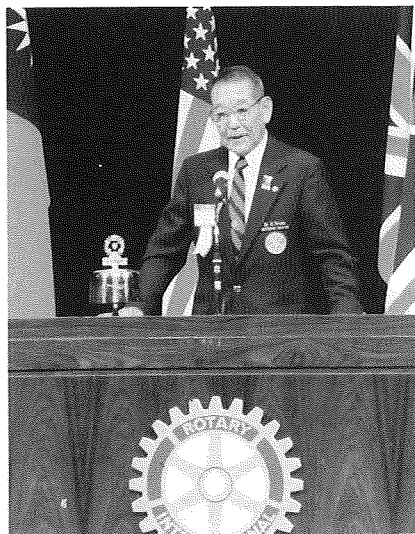
1995-'96年度R. I. 会長ノミニーとしてハーバード・ブラウン氏（アメリカ）が推挙されました。温厚で謙虚、静かで意志の強そうな立派な紳士だと私は感じたのです。また、更にビル・ハントレーR. I. 会長エレクトの講演があり、

「BE A FRIENDのテーマの下、友人は信じ、助け合い、許し、許され、共に協力して、奉仕の理想に向かおう。」とのお話がありました。

午後にはロータリーフォーラムがあり、私は「環境生態の変化とアジアにおける挑戦」というフォーラムに出席致しました。スピーカーとして台湾環境庁元長官ジャウ・コング・ジャウ氏がその基調講演の中で、

「人類はよりよい生活を図るのとは裏腹に開発は資源の枯渇、自然環境の破壊と地球の温暖化汚染を来し、開発と環境破壊は表裏一体の関係にある。」と、台湾の近代化と環境汚染の実例を示して話されました。





その後パネル討論に入りましたが、タイの
 パスト・ガバナーのパバット・パオバクル氏
 がタイ国の森林破壊が進み、モルヒネ生産の
 ため、特にビルマ国境の森林の破壊は著しい、
 と発言されました。昨年は、第2760地区のあ
 るRCがチェンマイ付近において破壊された
 熱帯雨林の再生のため、植林の援助をして頂
 いたとの報告があり、私も意見陳述の場を与
 えて頂きました。

「今、チェンマイ植林の奉仕を紹介して頂いたR. I. 第2760地区のガバナー・エレクトの
 峰谷弘道です。私どもの地区は、数年前より
 W. C. S. 活動に大いに協力しています。初め
 は、フィリピン、タイの貧困に対する援助活
 動に力を注いでいましたが、よく調べてみま
 すと、貧困とは行政の歪みより起こるもので、
 ロータリーがそれを援助しても行政当局には
 少しも改善の意欲が示されず、貧富の差は
 益々大きくなります。従って、W. C. S. の目
 標を地球環境保全と教育に力を注ぐようにな
 りました。これからもこの方針を堅持したい
 と思っています。本年度は、更に地球の汚染
 を予防する為、クリーンエネルギーの普及に

力を入れたいと思っています。そして、太平
 洋の孤島ベラウ共和国の100軒の家々に、ソー
 ラー発電システムを寄贈したいと考えていま
 す。太平洋のクリーンな環境を守る事は、ア
 ジアの人々にとって非常に大切なことです。
 地球の温暖化現象を防ぐ為に、クリーン・エ
 ネルギーの開発と普及は大切な事であり、ロ
 ータリアンは、これに注目してソーラ・シス
 テム工業を育成発達させることが大切だと考
 えます。」と私見を述べさせて頂きました。皆
 様から多大の拍手を受け、共感を得ることが
 できました。

15日(水)午後5時より第5回本会議と閉会式
 が行われ、ロバート・R・バースR. I. 会長
 が大会委員会及びホスト組織へ感謝の辞を送
 られ、続いて閉会の辞を述べられました。

そして「蛍の光」が歌われ、閉会の点鐘が
 バースR. I. 会長により鳴らされました。点
 鐘の時「行動に信念を、信念は行動に」とテ
 ーマを掲げられました。ロータリーの強きリ
 ーダーであるバースR. I. 会長の瞳に涙が溢
 れているのを見て感激し、私どもも涙を流し
 たのでした。

国際大会各種行事

◇6月9日(木)

ホスト地域大会 S. A. A. 打ち合わせ会議
国際研究会歓迎レセプション

◇6月10日(金) ————— 大会第1日

国際大会への登録、信任状の査証とチケット販売
国際研究会
青少年交換役員会議
国際研究会昼食会
青少年交換役員晩餐会

◇6月11日(土) ————— 大会第2日

国際大会への登録、信任状の査証とチケット販売
国際研究会
青少年交換役員会議
ローターアクト会議
国際研究会昼食会
ホスト組織主催歓迎行事

◇6月12日(日) ————— 大会第3日

国際大会への登録、信任状の査証、チケット販売
大会 S A A の打ち合わせ会議
大会プログラム・リーダーの会議
ポール・ハリス・フェロー会議と昼食会
第1回本会議
第1回本会議(繰返し)

◇6月13日(月) ————— 大会第4日

国際大会への登録、信任状の査証、チケットの販売
第2回本会議(午後の部)
最高のロータリー奉仕展示会
会長主催慰労昼食会
会長エレクト主催リーダーシップ昼食会
ドラゴン船の競艇
第2回本会議(午前の部)
ホーム・ホスピタリティ

◇6月14日(火) ————— 大会第5日

国際大会への登録、信任状の査証、チケット販売
第3回本会議
最高のロータリー奉仕展示会
現役員、元役員の懇親昼食会
ロータリー研修会
ご婦人向けプログラム
国際親善晩餐会

◇6月15日(水) ————— 大会第6日

国際大会への登録、信任状の査証
第4回本会議
最高のロータリー奉仕展示会
ロータリー・フォーラム
閉会式(第1回)
閉会式(第2回)
閉会式(第3回)

1996~'97年度 ガバナー・ノミニー候補者の推薦について

国際ロータリー第2760地区指名委員会は各クラブに対し、次の通り1996~'97年度(石川年度の翌年度)のガバナー・ノミニー候補者指名案の提出を要請致します。

提案は、候補者推薦クラブの例会で選択され、クラブ幹事によって正式に証明された決議という形式で提出して下さい。

尚、推薦クラブの他、地区内5クラブの推薦を必要としますので、この点特にご注意願います。
詳細は、R. I. 細則第12条第7節を参照して下さい。

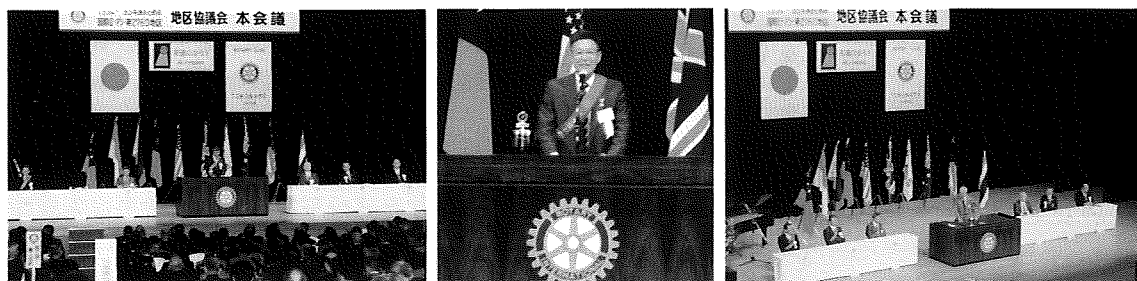
送付先 〒451 名古屋市西区槌の口町3-19
ホテルナゴヤキャッスル 427号室
国際ロータリー第2760地区
ガバナー 蜂谷弘道

地区指名	委員長	盛田 和昭
"	副委員長	加納 泉
"	委員	神戸 政治
"	委員	宮地 信尚
"	委員	蜂谷 弘道

締切り 1994年8月31日 必着

1994～'95年度のための国際ロータリー第2760地区協議会

日時／平成6年5月8日(日) 会場／常滑市民文化会館



第2760地区 地区協議会プログラム

次 第	時 間	
登 録 本 会 議 点 鐘 国 歌 斉 唱 ロータリーソング「奉仕の理想」 開会のことば 歓迎のあいさつ 特別出席者紹介 出席クラブ紹介 地区ガバナーあいさつ 新しい年度の目標について	9:30～10:20 10:30～11:30	(司会) 実行副委員長 赤井 俊二 地区ガバナー 宮地 信尚 ソングリーダー 山村 茂喜 実行委員長 市田 弘治 ホストクラブ会長 権田 宣弘 地区ガバナーノミニー 蜂谷 弘道 実行副委員長 後藤 正 地区ガバナー 宮地 信尚 地区ガバナーノミニー 蜂谷 弘道
諸事お知らせ 移動・昼食 分 科 会 移動・休憩 本 会 議 ガバナー講評 ガバナー引継ぎ・記念バッヂ贈呈 ガバナーズクラブガバナー贈呈 ガバナーノミニー講評 次期ホストクラブ発表 次期ホストクラブ代表あいさつ ロータリーソング「手に手つないで」 閉会のことば 点 鐘	11:30～12:40 12:40～14:40 14:40～15:20 15:20～16:00	実行委員 神原 孝也 地区ガバナー 宮地 信尚 地区ガバナーノミニー 蜂谷 弘道 地区ガバナーノミニー 蜂谷 弘道 名古屋東南RC次期会長 近藤 三吉 ソングリーダー 山村 茂喜 実行副委員長 後藤 正 地区ガバナー 宮地 信尚

総括(参加者):出席者全員 (会場名):文化会館

1994～'95

ガバナーノミニー ……蜂谷弘道(名古屋和合)

ガバナー ……宮地信尚(豊川)

1995～'96

ガバナーノミニー ……石川和昌(豊橋)

第1 分科会

〈会長・幹事部会〉

(参加者)：144名 (会場名)：INAX

リーダー ガバナー	宮 地 信 尚 (豊川)
アドバイザー パストガバナー 〈アシスタントリーダー〉	近藤友右衛門 (名古屋)
ガバナーノミニ (1995～'96)	石 川 和 昌 (豊橋)
地区幹事	杉原 彦三郎 (豊川)
次期地区幹事	森 武 保 (名古屋和合)
次期地区会計長	外 村 孝 (名古屋和合)
次期地区資金委員長	伊 藤 洵 二 (名古屋中)



蜂谷ガバナーノミニより、心と心の交わり、触れ合い、真心と真の友達について話され、'94～'95年度のテーマ『友達になろう』を、きめこまやかに話され感動しました。

続いて外村次期地区会計長による地区資金予算書と地区特別会計予算書の説明があり、承認されました。

各リーダーから、会長は手続要覧を熟読し、会長としての任務を充分理解し、又、幹事は実務面をよく掌握し、会長幹事の良いチームワークでガバナー事務所とも連絡を密にし、困った事や分からない事は相談するように、等々の助言がありました。

近藤・加藤パストガバナーからは、出席会員の肩の荷が軽くなるような言葉を頂き有意義な分科会が開催できました。

第2 分科会

〈クラブ奉仕・会員増強部会〉

(参加者)：143名 (会場名)：常信本店

リーダー 次期クラブ奉仕委員長	服 部 国 男 (岡崎)
アドバイザー パストガバナー 〈アシスタントリーダー〉	福 田 浩 三 (名古屋空港)
次期拡大委員長	鈴 木 孝 平 (刈谷)
次期会員増強委員長	萩 野 修 (新城)
次期広報委員長	小 山 勇 (名古屋西)
次期ロータリーの友委員長	井 沢 慶 一 (名古屋和合)



福田パストガバナーより、クラブ奉仕が最も重要な活動であって、ロータリーの基盤を作る部門であるとの講話に引き続き、各アシスタントリーダーから指針が示された。拡大については、新クラブ設立には熱意プラス『時』が熟することが肝要である。会員増強については量より質を重んずる時代であり、2～3%の増強を計画したい。増強のためには、基本的には地域に密着した4大奉仕の盛り上がりが必要である。活力維持のために若い会員の入会が必要である。ロータリーの友については、購読率と投稿率のアップをぜひお願いしたい等の説明がありました。

服部リーダーの司会で活発な質疑応答がなされ、和気あいあいのうちに有意義な分科会が開催できました。

第3 分科会

〈職業奉仕部会〉

(参加者): 72名 (会場名): 安藤証券

リーダー 次期職業奉仕委員長 岡 本 纓 二 (名古屋名東)
 アドバイザー パストガバナー 田 中 徹 (半田)
 <アシスタントリーダー>
 次期分区分代理 平 林 米 司 (犬山)
 次期分区分代理 加 藤 喜 作 (豊田)
 次期職業奉仕副委員長 森 澄 (豊橋)



前半は岡本リーダーの「職業奉仕委員会とは」の総論から始まり、3人のアシスタントリーダーにより、「これからの職業奉仕」、「職業奉仕(理念・倫理)を初心にかえり考えよう」、「ボランティアーズ」等の職業奉仕の根本についての提案がありました。

後半は実践を踏まえた職業奉仕のあり方について「看護婦教育における職業奉仕」の説明があり、その後、質疑応答の形式で田中パストガバナーがアドバイザーとして、ロータリーの職業奉仕の精神を格調高く説かれました。

Vocational Serviceの原語の意味、4つのテストの起源、職業(自分のため)と奉仕(他人のため)の相反するものへの超我の奉仕。ロータリアン個人として、委員会として、クラブ全体としてどのように取り組んでいくか、大変中身の濃い分科会でした。

第4 分科会

〈社会奉仕・環境保全部会〉

(参加者): 123名 (会場名): 市役所

リーダー 次期環境保全(小)委員長 片 山 主 水 (名古屋東南)
 アドバイザー パストガバナー 神 戸 政 治 (あま)
 <アシスタントリーダー>
 次期分区分代理 石 川 孝 司 (豊橋)
 次期社会奉仕副委員長 夏 目 誠 一郎 (名古屋中)
 次期環境保全(小)副委員長 石 川 顕 次 (豊橋北)
 次期環境保全(小)委員会委員 鷲 塚 貞 長 (名古屋和合)



第4分科会は、片山次期環境保全(小)委員長をリーダー、神戸パストガバナーをアシスタントリーダーとして123名の参加で開催されました。

夏目次期社会奉仕副委員長は、各クラブの継続事業のマンネリ化の打破と高齢化社会に対する対応について考えるように挨拶されました。会議中に蜂谷ガバナーがわざわざお越しになられ「我々は、開拓者でなければならない。各クラブとも知恵をだしあって邁進してほしい」と力説されました。

片山委員長は①ソーラー発電システムに参加する事②地区における悪水路の浄化プロジェクトを考える事③担当者は、各クラブで環境問題に関して卓論する事④環境安全週間(5月30日～6月5日)を設定の予定ですからその期間に各クラブにおいて何らかの事業をする事、以上の4点につき指導をされました。

石川次期環境保全(小)副委員長からは、悪水路を浄化するためのバイオコードの特徴や具体的な事例の説明があり、鷲塚次期環境保全(小)委員会委員からは、ソーラー発電システムについて詳細な説明があり、パラオ(ペラウ共和国)にそれを援助するため、各クラブに資金の援助をお願いしたいとの要望がありました。

第5 分科会

〈国際奉仕部会〉

(参加者)：72名(会場名)：競艇場3F

リーダー 次期国際奉仕委員長	吉村 卯一郎	(名古屋名北)
アドバイザー パストガバナー	盛田 和昭	(名古屋)
〈アシスタントリーダー〉		
次期国際奉仕副委員長	松原 忠久	(名古屋和合)
次期青少年交換(小)委員長	林 光雄	(名古屋西)
次期世界社会奉仕(小)委員長	牧 真	(岡崎南)
次期国際友好(小)委員長	伊藤 公正	(岡崎)



吉村次期委員長より、各小委員会の活動状況について説明があり新年度も各クラブ共一層活発に活動してほしいと要請があった。

続いて林次期青少年交換小委員長より、交換学生の派遣と受け入れについて詳しい説明があり、特に新年度はより多くの学校から優秀な高校生を募集したいということで地域の高校にポスターの配布を希望された。

次に牧次期世界社会奉仕小委員長より、W.C.S.視察旅行報告書の説明を受け、飢餓や貧困に対する金品の援助ばかりでなく、植林等現地で身をもって行う活動もしたいとの意見が出された。

また伊藤次期国際友好小委員長から地区クラブの国際交流概要一覧表が提示され参考となった。その後質疑応答があり盛田パストガバナーが感想を述べられ、松原副委員長の挨拶で閉会した。

第6 分科会

〈青少年活動・インターアクト・ローターアクト部会〉

(参加者)：98名(会場名)：知多農協

リーダー 次期青少年活動委員長	宮本 昌幸	(岡崎南)
アドバイザー パストガバナー	高沢 隆	(豊橋)
〈アシスタントリーダー〉		
次期青少年活動副委員長	小保川 二郎	(名古屋北)
次期インターアクト(小)委員長	松前 憲典	(一宮中央)
次期ローターアクト(小)委員長	野崎 洋二	(名古屋瑞穂)
次期ライラ(小)委員長	岡戸 麻一	(東知多)



高沢アドバイザーより、青少年活動委員会についての意義、また委員会の立場について話がありました。

続いて出席者全員にてインターアクトの歌の斉唱のあと、各アシスタントリーダーより、インターアクトの具体的な現況と今後の希望目標について(本年度東知多RCのインターアクト設立、又海外派遣のすばらしさ等)の話、ローターアクトも同様地区の現況と今後の進め方、会員とのかかわりあいについて話がありました。

最後にライラについて来年度東知多RCホストから愛知県美浜少年の家にて行われる研修の参加についての協力とお願いがあり終了しました。

第7 分科会

〈ロータリー財団部会〉

(参加者): 71名 (会場名): 競艇場 2F

リーダー 次期財団委員長	星 野 充 (一宮)
アドバイザー パストガバナー	加 納 泉 (名古屋中)
〈アシスタントリーダー〉	
次期分区分代理	林 恵 (稲沢)
次期財団奨学会(小)委員長	小 出 忠 孝 (名古屋東)
次期財団学友会(小)委員長	矢 島 茂 (名古屋守山)



ロータリー財団の歴史・目的・資金の配分(シェア・D.D.F.・W.F.)、更にD.D.F.・W.F.の配分と運用などについて、体系的に詳細に説明をいただき、受講者の勉強に資するところ極めて大きいものがあつた。各リーダー、アドバイザーとも熱意を込めて話し掛けられ、感銘するところ深いものがあつた。

ロータリー財団は、アメリカの国内法に基づくものである関係上、これを国際的に運用するに問題点があるように感ぜられた。また財団学友会については、そのフェローシップを一段と向上し、その和と輪を強化し、日本における一般同窓会のあの熱気と懇親の気風を醸成し、財団に対する報恩の気持ちのもと、財団の意義と効用を深く認識し、更なる昂揚を図りたいと念願する。

質問者も熱心に各リーダーに質疑し、各リーダーも親切に指導せられ、予定時間を超過する盛況であつた。

第8 分科会

〈米山記念奨学会部会〉

(参加者): 69名 (会場名): 商工会議所

リーダー 次期米山記念奨学会委員長	米 田 春 雄 (岡崎)
アドバイザー パストガバナー	奥 谷 博 俊 (尾張旭)
〈アシスタントリーダー〉	
次期分区分代理	大 谷 和 雄 (名古屋千種)
次期米山記念奨学会副委員長	小 田 公 平 (豊橋)



奥谷アドバイザーより、米山記念奨学会は日本のロータリークラブが世界に誇れる素晴らしい制度であるご挨拶をいただき、米田リーダーよりこの一年間米山記念奨学会に対し、各クラブのご理解とご協力のお願いがされました。

奨学会について沿革、目的と意義、世話クラブおよび、カウンセラー制度について説明され、組織と運営、奨学生の募集についての注意事項、奨学金の種類、寄付金の種類と免税措置の特典について説明がありました。

本年度地区の奨学生希望者95名中37名が米山奨学生になりました。一人でも多く採用するには地区の寄付金を増していただく為の協力が必要である。また米山カレンダーも詳細に説明があり、マニュアル、資料等以外にも色々質疑応答があり誠に有益な分科会でありました。

第9 分科会

〈新会員懇談会部会〉

(参加者): 327名 (会場名): 文化会館

リーダー	バストバグナー	森 泰 樹 (豊橋)
〈アシスタントリーダー〉		
次期分区分代理	清 水 良 三 (半田南)	
次期分区分代理	朽 木 義 一 (名古屋南)	
次期分区分代理	太 田 昭 夫 (安城)	



330人に及ぶ参加者が集う中、まずロータリーの誕生、発展の経緯、原点理念（親睦から始まり相互扶助、そして社会に対する奉仕へ）について説明がありました。現在も奉仕と親睦は密接不可分、奉仕はフェローシップの中から生まれると言われました。

次に、組織についての全般的な説明の中で、例会に出席することの大切さが強調されました。

また、ロータリーの精神・哲学について、ロータリーは人生哲学である、個人の哲学であって集団の哲学ではない、などの説明がありました。

最後にメイクアップの奨め、手続き要覧に一度目を通すこと、小さくまとまらずにエネルギーに活動して欲しいが、その際は朗らかにエンジョイロータリーで、という森リーダーのアドバイスで終了しました。

〈第2760地区ニュース〉

●例会日変更のお知らせ

奥三河RCの例会は7月6日(水)より毎週水曜日午後12時30分～1時30分となりました。例会場は今まで通り奥三河総合センターです。※事務局は土曜日を休日とさせていただきます。

●地区委員変更のお知らせ

ガバナー月信No.1号(10ページ)の広報委員会副委員長は、大木圭之介君(名古屋南)から村松健彦君(名古屋南)に変更になりました。

●豊川RC例会場の追加事項

ガバナー月信No.1号(12ページ)、「地区内クラブ一覧表」の東三河分区分、豊川RCの通常の例会は記載通りで、第2週水曜日のみ会場は、東海カントリークラブとなります。所在地＝豊川市平尾町糖川11-31 (〒442)

―― 訃 報 ――

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

7月9日 片山 義紹 (刈谷RC)

7月10日 永田 平八 (尾西RC)

文庫通信 第2号

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料（貸出可）など、1万7千余点を収集・整備し、皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。

利用方法

文庫資料は自由に閲覧できますが、電話や書信によるお問い合わせも承ります。お問い合わせは間接では要領を得ない場合がありますので、なるべく本人から直接お願い致します。

（文庫資料をご希望の場合は）

- ・発行先に在庫のある資料については、発行先をご紹介致します。
- ・絶版のものは実費（1枚20円＋送料）でコピーサービスを致します。
- ・重複資料はご希望により無料進呈致します。

（貸し出し）

- ・一般資料（印刷物）の貸し出しは出来ませんが、視聴覚資料（ビデオ・スライド・フィルム）は予約制（申込用紙有）で貸し出し致します。

（登録資料の紹介）

- ・「資料目録」はクラブ事務所に備え付け用として1セット（3冊）をお送りしてありますので、ご利用願います。「目録」をご希望の場合はお申し込みください。
- ・「ガバナー月信」に「文庫通信」欄を設けさせて頂き、皆様のご参考になるような資料の紹介を致しております。

（ご寄贈）

- ・個人の著作、クラブ発行のもの、地区発行のもの等々、いずれも内外を問わずロータリーに関する資料をご寄贈願います。文庫に保管して皆様のお役に立てさせて頂きます。

独自のクラブ活動例

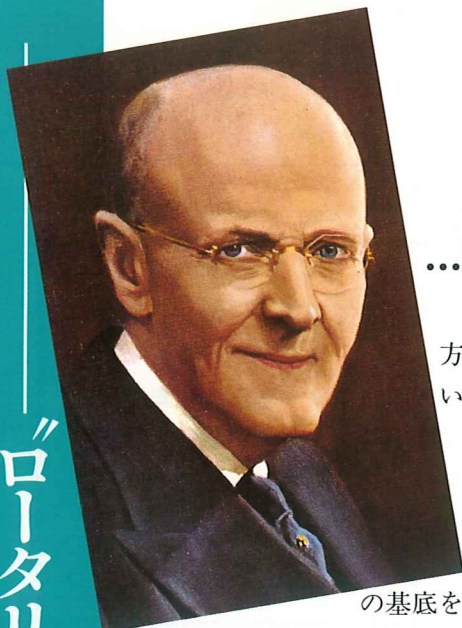
- 「ふるさと・自然」作文・詩入選作品集」日田 R. C. 1993年 27頁
 [申込先 日田 R. C. TEL(0973)22-7911]
- 「英語で語るー賀茂・東広島ー中学生英作文集」西条 R. C. 1993年 26頁
 [申込先 西条 R. C. TEL(0824)22-4202]
- 「留学生と大川を歩こう！」大川 R. C. 1993年 27頁
 [申込先 大川 R. C. TEL(0944)87-4110]
- 「第25回未来にはばたく若人の集い」両丹 7 R. C. 1994年 76頁
 [申込先 福知山西南 R. C. TEL(0773)27-9591]
- 「高齢化社会にどう取り組むか」福山 R. C. 1994年 18頁
 [申込先 福山 R. C. TEL(0849)24-5013]
- 「ふるさと日野川」武生 R. C. 1994年 24頁
 [申込先 武生 R. C. TEL(0778)23-5210]
- 「八王子の鳥たち」東京八王子西 R. C. 1993年 40頁
 [申込先 東京八王子西 R. C. TEL(0426)24-7342]
- 「明日の佐渡 自然から学ぶ尊さ」佐渡 R. C. 1993年 63頁
 [申込先 佐渡 R. C. FAX(0259)23-5015]
- 「ごみと食ー台所から見た生活環境ー」福山 R. C. 1994年 56頁、資料10頁
 [申込先 福山 R. C. TEL(0849)24-5013]

ロータリー文庫

〒105 東京都港区芝公園2-6-3
 abc会館 7階
 TEL (03) 3433-6456
 FAX (03) 3459-7506
 開館=午前10時～午後5時
 休館=土・日・祝祭日

「ポール・ハリス自伝」に思う

1994-1995年国際ロータリー第2760地区 カバナー 蜂谷 弘道



私の高等学校時代の10年先輩に井元啓太さんとおっしゃる方がみえました。名古屋ロータリークラブの会員でいらっしゃいました。彼は正に名古屋が生んだ天下の奇人で、寮歌祭になれば壇上で号令をかけ、太鼓をたたき、羽織、袴をつけ、実に豪傑そのものでした。そればかりか、厳しい人生観、物の本質を求める姿、私の人生の師でした。

20数年、休日毎に私とゴルフを共にして頂き、私の人生観の基底を踏みならして頂いた大恩人であります。その彼に、私がガバナーノミニに指名して頂いた頃、忠告して下さった言葉は「ロータリアンは一度原点を知れ」と言うものでした。

彼は昨年7月、74歳で不帰の客となり、不況の折、名古屋はまた一段と寂しくなってしまったと感じたのであります。

そして、私はロータリーの原点を求める為に、ここ1年、ロータリーの本を読みました。余りにも私の不勉強を感じたのであります。ポール・ハリス自身が書いた「My Road to Rotary」の日本語訳を手に入れ、じっくりと読みました。彼の本には、シカゴのロータリークラブを設立する以前の事が7割書かれています。少年時代を過ごしたバーモントの谷間ウォーリングフォード、自分を育ててくれた祖父ハワード・ハリスと祖母パメラのこと、田園生活を愛する厳格なニューイングランドの家庭の躰、また、大学卒業後にアルバイトをしながら5年間の放浪生活を送った間に知り合った人々の生き方、学問では学べない体で覚えた人間の心などです。ロータリーに脈打つ彼の哲学は一朝一夕にできたものではなく、実に彼の幼年時代から青年時代にかけて1/4世紀に及ぶ年月の間に培われたものであり、彼はそれを、我々ロータリアンに話したかったのだと思います。

子供は大人の鏡であると言われますが、大人も子供も大同小異です。子供が愛するものは大人も愛します。少年時代の教訓として「人々との交友は大きな喜びである事」をポールは成長して行く過程で学びました。それを素直に世界に広めようとする過程で、ロータリーは産声をあげ、また、自ら発育していったのです。一体、このロータリーの創始者ポールの「人となり」は、遺伝によるものでしょうか。美しい環境によるものでしょうか。祖父母の愛情によるものでしょうか。或いは大学を終えた後の5年に及ぶ放浪生活によって生まれたものでしょうか。私はこれを皆様と共に今、考えてみたいと思います。(つづく)

★次回からの連載にご期待下さい。

ロータリークラブに関する著書紹介 その①

ロータリーの創始者「ポール・ハリス」

- 発行日／昭和51年8月25日
- 刊行／京都西南ロータリークラブ

京都市下京区東洞院通塩小路下ル

